

# LPO

レッスン プラス ワン

Apr, 2001

25

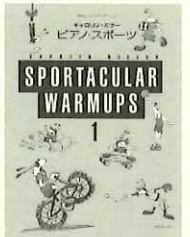
ホームページ開設!

URL: <http://www.musenet.co.jp/lpo>

LPO編集室：〒174-0063 東京都板橋区前野町3-43-7  
 〒542-0063 大阪市中央区東平2-2-19

楽譜専門部 佛松沢書店内 TEL：03-5970-5917

楽譜専門部 佛楽販大阪内 TEL：06-6762-9668



表現のためのピアノテクニック  
 キャロリン・ミラー

## 『ピアノ・スポーツ』

やすだ ひろこ  
 安田 裕子

「ピアノ・スポーツ」(全音楽譜出版社)は、ピアノとスポーツを結びつけるというおもしろいアイデアから生まれた「指と心」の楽しい教則本です。この教本は、ギロック作品の出版元で知られるウイリスミュージック社企画/教育音楽作曲家のキャロリン・ミラー作曲・編集の「Sportacular Warmups」がベースとなっており、この度日本のピアノの先生と学習者向けに「ひとくちコメント」をつけ、日本語版として刊行することになりました。

◆「スポタキュラー」は「スポーツ」と「感触」の合成語  
 「Sportacular」というのは、ウイリスミュージック社の生み出した「Sport (スポーツ)」と「Tactical (触感)」の合成語で、スポーツを通してピアノ演奏法の感触をつかもうというものです。スポーツは競い合うことが主となり、音楽は表現することが主となるので、この組み合わせは水と油のように思われがちです。ところが、アメリカの子ども達は、ピアノを弾く子どもでも、年間通していろいろなスポーツを楽しみ、野球にバスケット、サッカーなど、親も子ども一体となって大いに盛り上がります。そんな生活の興味の大半をしめるスポーツをピアノの練習と結びつけたならば、ピアノ学習者にとって動きを理解しやすく、アーティキュレーションのイメージを簡単に思い浮かべることができるはずですよ。

◆ピギナーからアーティキュレーション  
 どんな短い音楽の中にもアーティキュレーションが存在します。また、アーティキュレーションを感じられない音楽ほど退屈なものはありません。ピアノを弾くとき、まず表現したいことを感じる感性が必要です。

そして、感情を表現するにはテクニクが必要です。テクニクとは、楽譜を読むこと(分析)と身体的な動きが中心になります。「ピアノ・スポーツ」では、その音楽表現に必要な身体的な動きとスポーツの動きを結びつけています。たとえば「スタックカート」では、バスケットのドリブル、タイムレコーダーの秒を刻む音、棒高跳びの踏み込みジャンプ、縄跳びなどを取り上げ、同じ「スタックカート」でも、「はねる」「けりあがる」「はじく」「短く」などいろいろな表情があることを教え、体験させてくれ

ます。

◆どう使おうか「ピアノ・スポーツ」?

中央のC音から上下5つの音が読めるようになったら、この本を使い始めることができます。そして、順次新しく出会う音を覚えていくこともできます。

また、主教材で出てきた問題点をクリアするために使うこともできます。たとえば2音のスラーがうまく弾けないとき、この本から2音のスラーが取り上げられているところを全部探して弾いてみましょう。

そして、使う指も1、2、3指から始まり4、5指へと進んでいきますので、小さな手の子どもにも、なかなか指が動かない大人のピギナーにもやさしく考慮されています。

また、「バスケットボール」「野球」「陸上競技」「超冒險的なスポーツ」「サッカー」の各章の終わりに、今までの総合的なおさらいとしてストーリー性のある音楽が提供され、各フレーズごとにイメージを膨らませ、演奏者自らその音楽にお話をつけるようになっていきます。

指を強く、心を豊かに育ててくれる「ピアノ・スポーツ」は、一音一音に「こころ」と「ストーリー」があることを教えてくれ、興味深く楽しい気分がピアノの練習と取り組ませてくれることとします。

●プロフィール



大阪音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。ピアノを仙石浩之氏に師事。清風会淡木病院にて音楽療法を担当する傍ら、中・高等学校の非常勤講師、ピアノ教師を勤める。92年ウイリアム・ギロック氏、ヘンリー・ドスキー氏にアメリカにて師事、同時に日本にてギロック友会の会(現在日本ギロック協会)を発足。

世界の音楽仲間との交流をはかり、ギロックの音楽の普及と研究に努める。また、多くのギロックおよびギロックの仲間の楽譜、CD、ミュージックデータ、そしてギロックの作品と生涯を紹介するCD-ROMの製作に関わる。

◆日本ギロック協会ホームページ [http://homepage2.nifty.com/William\\_Gillock/](http://homepage2.nifty.com/William_Gillock/)

新学期  
レッスン本  
特集

こんな時、  
何を読む？



☆演奏法・指導法の原点に戻る！

「演奏法」といって堅苦しく聞かすが、作曲者、そして自分の想いを自由にピアノで表現するには、やはりテクニックが必要ですね。さらに生徒に対してはそのテクニックをいかに身につけさせてあげられるかが問われるのでは？

数ある演奏法本の中で最もおすすめなのが『ピアノ演奏 音楽を表現する喜び』（井上直幸 著／春秋社）。

この本では、「表現する喜び」を感じられるための数々のテクニックが、100を超える譜例と多くの図版でわかりやすく説明されています。「どんなふうに教えれば生徒が上達してくれるのかわからない」「どんなテクニックがあるのか、もっと勉強したい」という時、ぜひ読んでほしい一冊。



一方、バイエル、ブルグミュラー、ツェルニー、ソナチネといった定番教材について、何をポイントに指導すればいいの？という方におすすめなのが、これらの譜面に指導上のポイントが実際に赤字で書き込まれた「ムジカノーヴァピアノレッスン」

シリーズ（音友）、「レスナーのための指導のポイント」シリーズ（ATN）。これまでの自分の指導をチェックし、より自信をつけたい方に。

☆『ピアノ』という楽器についてもっと詳しくなる！

ピアノの先生は、ピアノ曲には詳しくても『ピアノ』という楽器については意外と知らないことが多いのでは？

読みやすさでいえば『ピアノを読む本』と知りたいピアノのはなし（ヤマハ）。



楽器の構造から歴史的背景、そして雑学的知識までを網羅しています。

一方、ピアノの変遷、進化をじっくり辿るには『ピアノの歴史 楽器の変遷と音楽家のはなし』（大宮眞琴 著／音友。紀元前3世紀の「オルガン」から今日のピアノまでを時代の音楽家との関わりを交え、検証します。また、チェンバロ、クラヴィアコード、フォルテピアノと、ピアノが著しく発展した時代にスポットを当てた「チェンバロ・フォルテピアノ」（渡邊順生 著／東京書籍）

モオスメ。

☆『子ども』について、  
もっと知る！

自分が大人になればなるほど、わからなくなってくるのが「子どもの「口」」。レッスンがうまくいかない時、ただやみくもに指導法を模索するのではなく、こんな本を読み、冷静になってみる必要があるかも知れませんね。

「心理学から学ぶピアノ指導のヒント 子ども心をとらえるピアノレッスン」（ヤマハ）は、普段のレッスンを発達心理学や教育学の側面から検証した一冊。



今まで腑に落ちなかった生徒の反応を本の中の事例に当てはめてみることで、これまで気付かなかったものが見えてくるかも。また、同様の視点で書かれたものとして『音楽は子どもに何を与えられるか成長に欠かせない音楽教育』（ヤマハ音楽振興会編／ヤマハ）が、子どもの成長過程において音楽教育が果たす役割を、ヤマハ音楽教室の指導事例をもとに、様々な角度から検証します。

そして『ピアノ学習の基礎』（伊能美智子 著／春秋社）もオオスメ。もともとは子どもにピアノを習わせるお母さん向けに書かれたものですが、様々な子どものレッスン事例とともに、導入期指導の具体的なノウハウとアドバイスが収載されています。

☆こんな時、  
どうすればいい？

いろんなケースを網羅しているという点で『ピアノレッスンQ&A あなたの疑問は解決します』（江口寿子・夏目かおる・江口彩子 共著／全音）がナンバーワン。



これまで悩んでいたことに対する答えをきくと見つけられるはず。

一方、「レッスン内容よりも教室運営の悩みが多いのよね〜」という方には、『ピアノ教室の救急箱 レッソンのトラブルQ&A 事例集』（ヤマハ）がおすすめ。こちらは教室運営のためのノウハウが満載です！

☆大人のピアノ、  
こうする！

生徒さんもそれなりに知識をお持ちで、やりたいこともはっきりしているからこそ難しくて奥深い、大人のレッスン。多くのノウハウを身につけましょう！

『大人のピアノ 長続きのコツ』（大村典子・大崎妙子 共著／ヤマハ）には、まさにそんなノウハウが満載。



また、大人の方は読譜で挫折されるケースも多いですね。そいつについては、五線

譜を使わないレッスンを検討してみてもいい？  
五線譜を使わないレッスンについては「超  
ピアノ演奏法 誰でも弾けるピアノ」(戸塚亮  
一著/シヨバン)を下巻へし。

### ☆あらゆるデータを蓄積！

「できる」先生は、情報収集にも余念が  
ありません。  
注目は「もっと知りたいピアノ教本」(倉友)。

もっと知りたい  
「ピアノ教本」



ピアノ教本の一大データ・ブック。導入教本を中心に、  
現在楽器店で目にするこ  
のデータを取載している。

この時期の教材選びを強力にアシストして  
くれることでしょう。

その他「名曲鑑賞百科 ピアノ曲篇」(吉井  
亜彦 著/春秋社)「ピアノ音楽史事典」  
(千蔵八郎 著/春秋社)「Keyboardピアノ」  
「バートリーガイド」(中村菊子 監修/ヤマ  
ハ)「日本の音楽コンクール全ガイド  
2001年版」「世界の音楽コンクール全ガ  
イド2001年版(4月下旬発売予定)」(シヨバン)  
などはレッスン必携ツールです。

### ☆今年こそ、「コード」に強くなる！

ジャズ、ポピュラーピアノを教える時、  
避けて通れないのが「コード」。今年こそ  
は、是非とも克服いたしましょう！

「楽しく学べる」という点では「若松正  
司の音楽セミナー コードのしくみ①②」(若  
松正司 著/音友)がオススメ。続編として  
「コードの使い方①②」(音友)もあります。  
一方、「できれば1冊でマスターしたい」  
という方には「絶対わかる！ポピュラー  
和声」(香取良彦 著/リットー)がオススメ

### 若松正司の音楽セミナー 「コードのしくみ①②」



「Yes/No」形式の「入門テスト」  
からはじまり、話口調の本文、  
各コードには楽しいイラスト  
(一見の価値あり!)付きと、遊び  
心にあふれたシリーズです。

「こちらにも楽しいイラスト、豊富な譜例  
はもちろんのこと、クラシック用語からも  
ポピュラー理論用語からも検索できる、充  
実の索引つきです。」

### ☆あの作曲家を攻略！

演奏解釈本は数多く出ていますが、中  
でも「ブラームス 性格作品 演奏の手引き」  
(T. シューマッカー 著/全音)に注目。

### 「ブラームス 性格作品 演奏の手引き」



主に交響曲での人気の高いピアノ曲  
だっけ覚えてくださいね！  
耳の肥えた大人の方の  
指導にも、ぜひ。

バラード、カプリッチョ、インテルメッツォ  
など、多彩な内容を持つブラームスの性格  
作品をステキに弾くために、ぜひ。

その他、バッハ、シヨバン、モヴェル、シ  
ューマン、ドビュッシなど、各出版社より  
いろんな作曲家、ピアノの解釈本が出て  
いますので、お気に入りの作曲家のものはせ  
ひぜひチェックして下さいね！

以上ご紹介してまいりましたが、一番大  
切なのは、これらの情報をただ鵜呑みにす  
るのではなく、情報をもとに、生徒一人一  
人のレッスン方法を考え、ていくことです。  
大変な作業ですが、きっとその分やりがい  
も大きいはず。皆さまの新学期のレッス  
ンが、充実したものでありますように！

## 子どもの心を 見つめて

### ◆「拒否」には、一度離れる。

小さい子どもが一番好きなのは、お母  
さんです。生まれたときから、おっぱい  
を飲ませてもらい、ずっと世話をしても  
らってきた人ですから、子どもにとって  
一番身近で、これほど安心して頼れる人  
はいないはずです。

お母さんのほつから見ても、文字とお  
り自分の血肉を分けた存在であり、自分  
の命よりも大切な存在です。生きてい  
る限り、無償の愛情を注ぎつづけること  
のできる対象です。

ところが、そんな母子の関係がうまく  
いかないケースがふえています。ユリカ  
ちゃんは一歳ですが、そんな子どもの  
一人です。

ユリカちゃんがピアノレッスンをほじ  
めたのは、四歳になったときでした。

ユリカちゃんは、無口でおとなしい子  
どもでした。先生が話しかけると、コッ  
クリしたり、首を横にふって答えるくら  
いで、ほとんど声をだしません。

そのかわり、ユリカちゃんのお母さん  
が、後ろの席からテキパキと答えてくだ  
さいます。先生とユリカちゃんの会話の  
はずが、いつも先生とお母さんの会話に  
なってしまうのです。

それに、ユリカちゃんはレッスン中、  
ピアノを弾いていてまちがえたり、先生  
に何か注意されたり、曲が合格しなかつ  
たとき、かならずお母さんの顔を、チラ  
チラと盗み見します。

第四回 江口 寿子

チラと盗み見します。

先生はお母さんに、「ピアノのことは  
ユリカちゃんにまかせてください」と  
おねがいしました。

ユリカちゃんが五歳になった頃から、  
無口でおとなしいユリカちゃんに、変化  
が起きはじめました。お母さんが何か命  
じると、きこえないふりをしたり、わざ  
と反対のことをするようにになりました。

先生はお母さんに、「ピアノについて  
は口をださないでください」ともつ  
一度おねがいしました。

そしていま、ユリカちゃんは一歳生  
です。ユリカちゃんは、レッスン室のドア  
の鍵を内側からかけて、お母さんを部屋  
の中に入れておとします。お母さんは  
とつとつ入室をあきらめました。

一人になったユリカちゃんは、人がか  
わつたようにのびのびして、何でも先生  
に話してくれます。ひよきんなことを  
いっては、先生を笑わせてくれます。

ほとんどユリカちゃんは、おとなし  
くもなしい、無口でもなかつたのです。  
お母さんを拒否する子どもは、お母さ  
んに支配されつづけてきた子どもです。

このような場合は、一度お母さんに  
子どもから離れたいただきます。  
そうすれば、時間がかかっても、お母  
さんを極端に拒否する関係は、やがて自  
然な関係に修復されます。

